

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 29 日現在

機関番号：16201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370081

研究課題名(和文) 戦前日本の右翼の国家論・ユートピア論

研究課題名(英文) Statism and utopian ideology by Japanese thinkers on the far right before and during World War II

研究代表者

Neuman Florian (Neumann, Florian)

香川大学・大学教育基盤センター・講師

研究者番号：80403773

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：研究課題は 戦前日本の保守派と右翼の政治、国家、憲法、ユートピア思想(「国体観念」)である。2014年と2015年、革新右翼の代表者大川周明に関する資料を分析したあと、東京に事務局のあるOAGドイツ東洋文化研究協会のドイツ語雑誌『OAG Notizen』で二つの論文を発表した。2016年と2017年、東京帝国大学の国史学教授平泉澄について研究を行い、2017年3月、同雑誌で平泉に関する第一の論文を発表した。

研究成果の概要(英文)：After having my doctoral thesis about of the right-wing constitutional professor Uesugi Shinkichi (1878-1929) published in Germany in 2011, I am expanding my research on the political thought by Japanese thinkers on the far right before 1945. Therefore in 2014, I wrote an article about Satomi Kishio (1897-1974), followed 2015 by a longer two part text about Okawa Shumei. Both texts examine Okawas thoughts and actions chronologically against the background of his times, while putting the emphasis on his activities after his release from prison in 1937 until his indictment as a war criminal in 1946, since the later period of his life has not been explored widely in non-Japanese publications yet.

In 2017, I published an article on the historian Hiraizumi Kiyoshi (1895-1984), that explores his ideological development until the year 1936. It will be followed by two more sections about Hiraizumi (The times of war, 1937-1945 / The postwar period) during the course of 2017.

研究分野：人文学

キーワード：哲学原論・各論 政治思想 ユートピア論 国体思想 国家思想

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 私は2008年、ドイツのミュンヘン大学 (Ludwig-Maximilians-Universität München) に博士論文『*Uesugi Shinkichi 1878-1929 – Die Entwicklung seines politischen Denkens und seine politischen Aktivitäten*』(訳『上杉慎吉(1878-1929)の政治思想の形成と彼の政治的活動』、132頁)を提出した。本論文を大幅に拡大し、3年間にかけて132頁から333頁に加筆し、2011年に完全な新しい原稿としてミュンヘンの出版社(Iudicium Verlag)から出版した。タイトルは『*Politisches Denken im Japan des frühen 20. Jahrhunderts – Das Beispiel Uesugi Shinkichi 1878-1929*』(訳『20世紀前半の日本における政治思想—上杉慎吉の例』)である。

(2) その研究課題(近現代の思想史における日本の政治・国家・憲法・右翼・ユートピア思想)を進展させ、日本の大正・昭和初期の保守派・右翼の5人の代表者の思想を対象とすることにした。まず、2014年2月、東京に事務局のあるドイツ語雑誌『OAG Notizen』で「Die „kokutai-Wissenschaft“ von Satomi Kishio (1897-1974)」(訳「里見岸雄の”国体科学“」)の論文を発表した。

2. 研究の目的

(1) 大正・昭和初期の保守派・右翼思想について研究する日本人学者は数多くいるが、ドイツ語と英語での研究はまだ少ない。それゆえ、西洋における日本の思想史・歴史に対する理解を深めるのが目的である。さらに、執筆したドイツ語の論文を英訳のまとまった本として出版する予定である。

3. 研究の方法

(1) 日本人の研究者と西洋の研究者(英語とドイツ語)の今までの研究成果を考慮しながら、上杉慎吉・里見岸雄・大川周明・平泉澄が書いた本と論文の全文を分析し、それぞれの代表者の思想的発展を描き、その中心的な考えを解明するのが研究方法である。

4. 研究成果

(1) 平成26年度の研究は革新右翼の代表者大川周明(1886-1957)をテーマとした。その第一の研究成果を2015年2月に、雑誌『OAG Notizen』で「Okawa Shumei und der Weg zur „Showa-Erneuerung“」(訳「大川周明と“昭和維新”への道」)の論文として発表した。内容を次のように分けた。

① 大学時代とインド独立運動

② 「第二維新」を目指して(1919年～1922年)

③ 大学寮の時代(1922年～1924年)

④ 行地社と大川の「道義国家」思想(1925年～1926年)

⑤ 満州問題と「昭和維新」(1927年～1931年)

⑥ 神武会と五一五事件(1932年)

(2) 本論文は1932年の五一五事件までの大川の「理想国家論」を検討し、彼の日本国家改造についての観念および社会行動を論じた。西洋近現代の国家的・社会的ユートピア論の出発点はギリシャ哲学者プラトンの理想国家論にあり、大川はそれと似た理想を幕末の儒学者横井小楠(1809-1869)の思想のなかで見つけ、1927年の『日本精神研究』で「プラトンの国家は、吾等の精神の情欲に相当する農工商、意志に相当する武士、理性に相当する統治者の三者より成る」と主張した。大川はまた江戸時代の思想家佐藤信淵(1769-1850)の理想国家論を賛美した。大川が想像した「道義国家」は主に伝統的な儒教思想に基づき、ロシア人哲学者 Wladimir Solovieff (1853-1900) とドイツ人教育学者 Rudolf Steiner (1861-1925) の思想を包含した。1925年に形成した右翼団体「行地社」の7綱領は大川を要約したものである。そのなかの「維新日本の建設」の綱領は上杉慎吉(1878-1929)の主張「国家は最高の道徳」を借用し、精神的な生活に於ける自由の実現、政治生活に於ける平等の実現と経済生活に於ける友愛の実現の綱領は Steiner の「社会有機体三層化」理論を当てはめた。結論として大川は、上杉のような観念右翼のユートピア的な国体論と違って、より現実的な国家観を提供した。

(3) 本論文では主に次の資料を利用した。

大川周明『日本文明史』大鏡閣(1921年)。

大川周明『復興亞細亞の諸問題』大鏡閣(1922年)。

大川周明『亞細亞、歐羅巴、日本』大東文化協會(1925年)。

大川周明『日本及日本人の道』社会教育研究所(1926年)。

大川周明『日本精神研究』文録社(1927年)。

大川周明関係文書刊行会編『大川周明関係文書』芙蓉書房出版(1998年)。

大塚健洋『大川周明 ある復古革新主義者の思想』中公新書（1995年）。

(4) 2015年11月、雑誌『OAG Notizen』に「Okawa Shumei und Japans Krieg in Ostasien」（訳「大川周明と大東亜戦争」）の第二の論文を発表した。後者の論文は大川の1932年からの思想と活動を次の節に分けて検討した。

- ① 五一五事件後の訴訟と獄中での活動（1932年～1937年）
- ② 日中戦争と「対米工作」（1937年～1940年）
- ③ 南進・米国・日中戦争の三角関係の中で（1940年～1941年）
- ④ 「大東亜戦争」（1941年～1945年）
- ⑤ 東京裁判（1946年～1948年）
- ⑥ 結論

(5) 大川に関する資料を検討した過程で論文の分量が徐々に大きくなったが（前者の論文の長さは28ページ、後者の論文は39ページになった）、研究は順調に進展した。後者の論文では主に次の資料を参照した。大川周明『米英東亞侵略史』第一書房（1942年）。大川周明『大東亜秩序建設』第一書房（1943年）。大川周明『新亞細亞小論』日本評論社（1944年）。大川周明『新東洋精神』新京出版（1944年）。大川周明『安楽の門』出雲書房（1951年）。大川周明『敗戦後 大川周明戦後文集』書肆心水（2010年）。大川周明関係文書刊行会編『大川周明関係文書』芙蓉書房出版（1998年）。大川周明顕彰会『大川周明日記』岩崎学術出版社（1986年）。小田部雄次『徳川義親の十五年戦争』青木書店（1988年）。大塚健洋『大川周明 ある復古革新主義者の思想』中公新書（1995年）。徳川義親『最後の殿様』講談社（1973年）。

(6) 2016年春以来、東京帝国大学の国史学教授平泉澄（1895-1984）についての研究を行い、2017年3月、雑誌『OAG Notizen』に

「Hiraizumi Kiyoshi und der „Geist“ der japanischen Geschichte」（訳「平泉澄と日本歴史における“精神”」）の論文を発表した。論文は1936年までの平泉の思想を次の節に分けて活動を検討した。

- ① 平泉の思想的背景（後醍醐天皇の建武中興→楠木正成・『神皇正統記』→山崎闇齋の崎門学・『大日本史』→福井越前藩・白山神社）。
- ② 1925年までの平泉の思想。
- ③ 「日本精神」（崎門学・水戸学）を主張する平泉と欧米留学。
- ④ 1931年帰国以来の思想展開と活動。
- ⑤ 1934年～1936年の「建武中興600年記念」と二・二六事件との関係。

(7) 本論文では主に次の資料を参照した。

平泉澄『我が歴史観』至文堂（1926年）。平泉澄編『闇齋先生と日本精神』至文堂（1932年）。平泉澄『國史學の骨髓』至文堂（1932年）。平泉澄『武士道の復活』至文堂（1933年）。平泉澄『思想問題小輯 6—革命論』文部省（1934年）。平泉澄『忠と義』石川縣警察部（1934年）。平泉澄『建武中興の本義』至文堂（1934年）。平泉澄『萬物流轉』至文堂（1936年）。平泉澄『悲劇縦走』皇學館大學出版部（1980年）。若井敏明『平泉澄—み国のために我つくさなむ』ミネルヴァ書房（2006年）。

(8) 平泉に関する資料を検討した過程で論文の分量が徐々に大きくなり、合わせて三つの論文を公開することにした。第二の論文「Hiraizumi Kiyoshi: Die Kriegsjahre 1937-1945」（訳「1937年～1945年の戦争時代の平泉澄」）と第三の論文「Hiraizumi Kiyoshi: Die Nachkriegszeit」（訳「戦後の平泉澄」）をいずれも2017年中に発表する予定である。平泉の研究を終わらせた後、九州帝国大学教授と国粹主義者鹿子木員信（1884-1949）と国民精神文化研究所の紀平正美（1874-1949）を次の研究課題にする予定である。最後に「国体というユートピア」の論文で研究の総合分析を行う予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計3件）

- ① 雑誌『OAG Notizen』2017年3月。
NEUMANN, Florian, ›Hiraizumi Kiyoshi
und der „Geist“ der japanischen
Geschichte‹, in: *OAG Notizen*, 03/2017,
pp. 10-39. 査読の有

論文にオープンアクセスできる URL:

http://www.oag.jp/images/reports/Feature_Neumann_Hirai_zumi.pdf

- ② 雑誌『OAG Notizen』2015年11月。
NEUMANN, Florian, ›Ōkawa Shūmei
und Japans Krieg in Ostasien“‹, in:
OAG Notizen, 11/2015, pp. 11-50. 査読
の有

論文にオープンアクセスできる URL:

http://www.oag.jp/images/reports/Notizen1511-Feature_I.pdf

- ③ 雑誌『OAG Notizen』2015年11月。
NEUMANN, Florian, ›Ōkawa Shūmei
und der Weg zur „Shōwa-Erneuerung“‹,
in: *OAG Notizen*, 02/2015, pp. 11-39.
査読の有

論文にオープンアクセスできる URL:

http://www.oag.jp/images/reports/Notizen1502-Feature_Neumann.pdf

〔学会発表〕（計2件）

- ① 2017年1月26日、東京のDIJ（ドイツ
日本研究所）（〒102-0094 東京都千代田区
紀尾井町 7-1 上智紀尾井坂ビル 2F）で招待
講演「*The ideologue and activist Ōkawa
Shūmei (1886-1957)*」（訳「大川周明の思想
と活動」）を行った。

- ② 2016年2月24日、東京のOAG（公益
社団法人オーアゲー・ドイツ東洋文化研

究協会）（〒107-0052 東京都港区赤坂 7-5-56）
で招待講演「*Politischer Utopismus bei
Vertretern der japanischen Rechten vor 1945*」
（訳「戦前日本の右翼者のユートピア論」）
を行った。この講演のテキスト（未公開）
を研究の最後総合分析の基礎とする予定で
ある。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

Neuman Florian (Neumann, Florian)
香川大学・大学教育基盤センター・講師
研究者番号: 80403773